

# 事業報告

平成 30 年 4 月 1 日より平成 31 年 3 月 31 日までの事業概略をご報告します。

## 当協会の概況

平成 30 年度の当協会の主な事業として、育英事業、展覧会事業、パブリックアートの普及事業、国際交流事業などを推進して参りました。

育英事業として「瀧富士基金」奨学生には奨学金の貸与及び給費を、「国際瀧富士美術賞」奨学生には奨学金の給費を行いました。また展覧会事業として「交通総合文化展 2018」を開催しました。

パブリックアート普及事業においては、昨年 4 月から今年 3 月までの 1 年間にゆりかもめ「新橋駅」、東京臨海高速鉄道「国際展示場駅」、お茶の水女子大学の国際交流留学生プラザなど 5 カ所に、ステンドグラスや陶板レリーフなど計 10 作品を設置しました。これによりこの 47 年間に全国に設置したパブリックアートは計 539 作品となりました。

本年度の活動内容を項目ごとにご説明します。

## I. 公益事業

### 1. 育英事業

#### (1) 瀧富士基金

日本の将来を担う若者を育てるための「瀧富士基金」第 52 期奨学生を募集しました。9 月 11 日の選考委員会での厳正な審査の結果、30 人の奨学生が新たに決まりました。また奨学生のうち特に成績優秀な学生の中から、奨学金の全額、または一部の返還を免除する給費生 9 人を、また奨学金が増額される特待生を 10 人選びました。

#### (2) 国際瀧富士美術賞

「国際瀧富士美術賞」第 39 期奨学生の第一次審査を 7 月 11 日に、第二次審査を 9 月 10 日に開き、厳正な審査の結果、国内 12 美大 13 人、海外 6 カ国 7 美大 8 人の計 21 人の受賞者を選びました。授賞式は 11 月 6 日午後 5 時から国際文化会館（東京・港区）で行われました。国内最優秀

者のグランプリには東京藝大の臼田貴斗さん、海外最優秀者の国際グランプリにはパリ国立高等美術学校のランダ・マッダさんが受賞しました。授賞式に引き続き懇親会を開催し、内外の受賞者を囲んで指導教員、大学関係者ら来賓が交流を図りました。

## 2. 展覧会事業

### (1) 交通総合文化展

第 65 回となる「交通総合文化展 2018」を「鉄道の日」（10 月 14 日）の関連事業として、10 月 18 日（木）から 23 日（火）までの 6 日間、JR 上野駅の中央改札口外コンコースの特設会場で開催しました。

本年度も写真（新日本観光写真）と俳句の 2 部門のほか、「パブリックアート普及活動特別展」、また現代日本を代表する日本画、洋画、書の作家グループ「溯瀧会」による新作展に 27 点を展示しました。さらに招待作家のコーナーでは国際瀧富士美術賞の第 20 回受賞者の内海聖史さんにステンドグラスの端材を使った作品を造っていただきました。会期中、外国人を含め多数の方がご覧になり、盛況のうちに終了しました。

### (2) 「原宿ファッションジョイボード文化展」

JR 原宿駅の大型看板 17 面を使った「原宿ファッションジョイボード文化展」では、「IT を守る、育てる、“頼れる IT 社会” の実現を目指して」キャンペーンを前年度に引き続き開催しました。

## 3. パブリックアート普及・振興事業

### (1) パブリックアートの設置

当協会は長年にわたってパブリックアート作品の制作、並びに普及活動を行ってきましたが、本年度は計 5 カ所のパブリックアートの設置に当協会がかかわり、全国に設置したパブリックアートは計 539 作品となりました。

このうちお茶の水女子大学では国際交流留学生プラザと大学本館に計 6 作品を設置しました。国際交流留学生プラザには中島千波先生の原画によるステンドグラス作品「櫻花爛漫」をはじめ、宮田亮平先生や日比野克彦先生の作品、また大学付属の小中学生による「3つの色とわたしの夢」と題する計 4 作品が設置されました。

また一般財団法人日本宝くじ協会に「平成 30 年度パブリックアート普及事業」を申請し、ゆりかもめ「新橋駅」と東京臨海高速鉄道「国際展

示場駅」の2カ所が認められました。

- ① ステンドグラス「四季・東京ベイ」  
設置場所：ゆりかもめ「新橋駅」ホーム階段上部  
作家：日本画家 平松礼二先生  
設置日：平成31年3月4日  
寄贈先：株式会社ゆりかもめ
- ② 陶板レリーフ「Osamu Tezuka, Characters on Parade 手塚治虫キャラクターズ大行進」  
設置場所：東京臨海高速鉄道（りんかい線）「国際展示場駅」  
作家：漫画家 故手塚治虫先生  
設置日：平成31年3月18日  
寄贈先：東京臨海高速鉄道株式会社

(2) パブリックアート普及のためのPR・広報活動

- ① 上野駅での交通総合文化展を利用してパブリックアート普及活動特別展を開催し、パブリックアートの意義と役割を知ってもらうとともに、その普及、振興に努めました。
- ② フランスのパリ国立高等美術学校の学生で、東京藝大に短期留学していたマリア・シルチェンコさんが2月から3カ月間、「クレーレ熱海ゆがわら工房」で陶板作品制作の研修を受けました。帰国前には工房のアーティスト3人と陶板作品の展覧会を熱海市内で開きました。
- ③ 東京藝大からの受託事業として、クレーレ・アート館で12月24日、澤和樹学長による「子どもたちへの音楽プレゼント」イベントを開きました。パブリックアート普及のための教育事業の一環で、会場にステンドグラス作品などを飾り、PRを行いました。
- ④ 「beyond 2020 プログラム」の認証獲得  
当協会が設置したパブリックアート作品について30年度も引き続き文化庁に認証申請を行い、認められました。

#### 4. 出版・発行活動

(1) 協会誌『くれあーれにゅーす』13号を31年1月1日付で発行しました。「真の文化都市への道」と題して、横浜市の林文子市長、彫刻家の澄川喜一氏、建築家の隈研吾氏、滝久雄理事長の座談会を特集しました。

#### 5. 日本の文化芸術の普及振興を兼ねた国際交流促進事業

(1) 若手芸術家の育英事業である「国際瀧富士美術賞」の11月6日の授賞式・懇親会に、国内外の受賞学生、指導教員、大学関係者ら多数を招待し、交流を図りました。授賞式前日には「クレーレ熱海ゆがわら工房」に国内外の学生、指導教官を招待し交流しました。学生たちにはステンドグラスと陶板を使ったワークショップも行い、制作した作品を授賞式の懇親会場で展示しました。

(2) 交通総合文化展の展示を通して、来日外国人観光客等に日本の自然や風土の素晴らしさを知ってもらうとともに、日本のさまざまな文化芸術を紹介しました。また日本発の文化で、世界に広がっている「ペア碁」の授賞式会場に交通総合文化展の入賞作品を展示し、国際相互理解の促進を図りました。

## II. 収益事業

### 1. 環境芸術にかかわる各種コンサルティング事業

公共スペースに設置する陶板レリーフ、ステンドグラス、あるいは立体作品などのパブリックアート作品の制作について、各種のコンサルティングを行い、収入を得ました。

### 2. 不動産などの賃貸業

当協会が保有している不動産や、工房等（クレーレ熱海ゆがわら工房、信楽工房等）の施設を企業に賃貸し、収入を得ました。